2020年度 事業計画書

学校法人 白梅学園

目　次

学校法人白梅学園役員一覧 1
［Ⅰ］2020 年度理事長方針 2

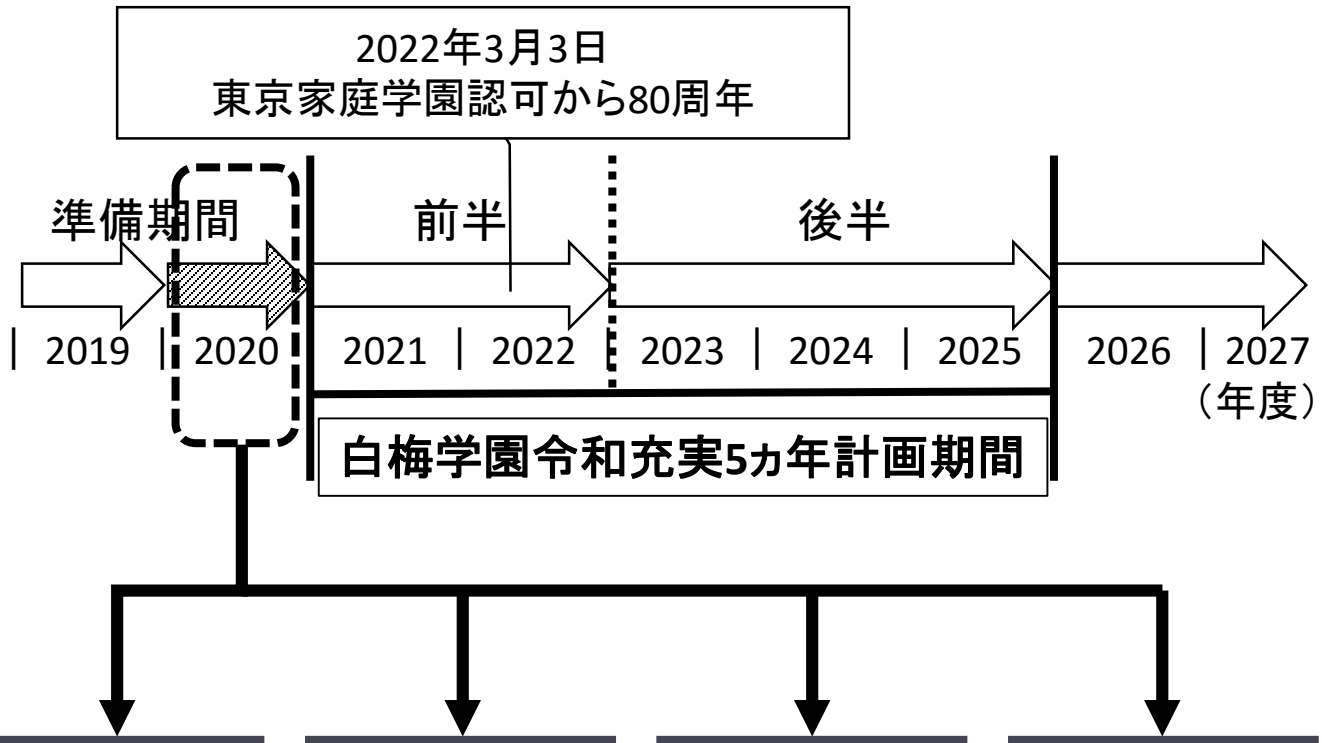
［Ⅱ］2020 年度部門長方針及び重点取組 4
１．学園・法人事務局 4
２．白梅学園大学・短期大学 5
３．白梅学園高等学校 7
４．白梅学園清修中学校・中高一貫部 8
５．白梅幼稚園 9
設置学校の概要 10
学園組織図 12

［Ⅲ］2020 年度の主要な事業計画 13
１．教育活動の推進 13
２．研究活動の推進 14
３．学生・生徒・園児支援の推進 16
４．学生・生徒・園児の確保 17
５．学園広報の推進 17
６．国際交流の推進 18
７．生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進 19
８．卒業生との連携等の推進 19
９．働き方・仕事の仕方の見直し 20
10．建学の精神の高揚 21
11．令和充実 5 ヵ年年計画・80 周年記念事業 21
12．大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画 21
13．財政再建計画 22
14．ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底 23
15．管理運営（施設改修・更新・労務他） 23
16．情報化教育/ICT 24

［Ⅳ］2020 年度予算 26
１．予算編成方針 26
２．収支見通し 26
３．資金収支予算の概要 28
４．事業活動収支予算の概要 29

白梅学園 2020年度事業計画概要

2020年度の事業計画は、2021度から始まる「白梅学園令和充実5ヵ年計画」に向けた「準備期間」の最後の年度として位置付けられます。



白梅学園グランドデザイン	持続的存続体制作り	教育充実・発展	80周年記念事業
• 建学の精神 • 将来ビジョン • 学校間連携 • ステークホルダーとの連携 • ガバナンス強化	• 財政構造見直し • 働き方の見直し • 建築計画 • 学園広報	• 中等教育／幼児教育の在り方検討 • 教育／研究の一層の充実 • ICT教育 • 地域貢献 • グローバル化	• 記念式典 • 記念事業募金

学校法人白梅学園役員一覧

理 事 長	井原　徹
理　　事	近藤　幹生
理　　事	髙田　文子
理　　事	青山　彰
理　　事	山田　裕
理　　事	大林　泉
理　　事	兼清　信生
理　　事	田村　敦彦
理　　事	秋田　中子
理　　事	増田　昭一
理　　事	長倉　澄
理　　事	髙　為重
理　　事	西井　泰彦
理　　事	細江　卓朗
理　　事	牧野　光昭
監　　事	池田　勝
監　　事	金子　武弘

[Ⅰ]2020 年度理事長方針

2020 年度の事業計画は、2021 度から始まる「白梅学園令和充実 5 ヵ年計画」に向けた「準備期間」の最後の年度として位置付けられます。

この 5 ヵ年計画は、2022 年 3 月 3 日に迎える「創立 80 周年」という大きな節目の前後 5 ヵ年の「学園充実・発展計画」であります。穂積重遠と小松謙助が戦時中にもかかわらず、我が国の将来のために、人材育成のための教育機関として設立した「東京家庭学園」の意義と偉業を、改めて思い起こし、学園創立 80 周年を機にその志を継承・発展させ、学園の社会的責任を自覚する良い機会です。

本学園は、大学院・大学・短期大学・高校・中学・幼稚園を擁していますが、すべての学校がヒューマニズムという建学の精神を基盤としながら、幼児教育、中等教育、高等教育の分野において、教育・研究を活性化させ、人材育成を強化させていかなければなりません。

例えば大学・短期大学では、保育や子ども学において出色の活躍をしていますが、その現状に満足することなく、これからは「さすが白梅学園の卒業生は違うね」といった社会の評価を獲得していく必要があります。

中学校・高校においては、中等教育としての特色ある発展を一層強め、幼稚園は「大学附属」を実のあるものにしていかなければなりません。

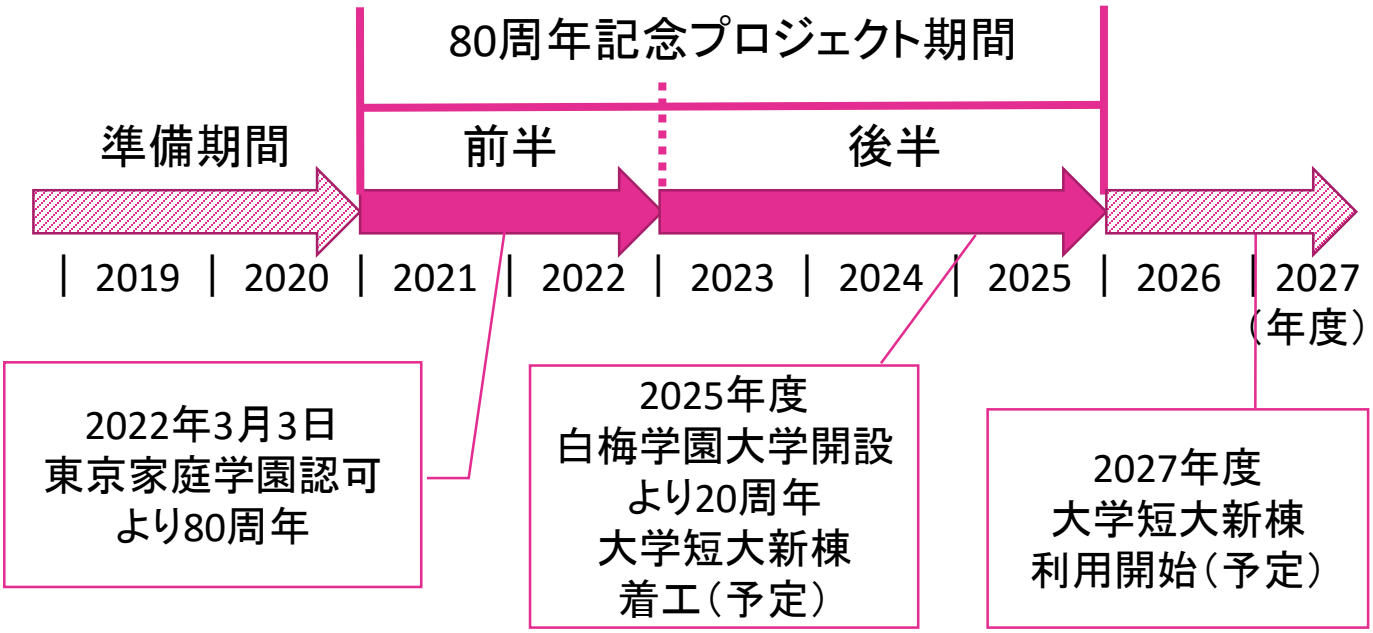
2020 年度の事業計画は、そうした将来目標に向けた事業展開の入口です。

（理事長　井原　徹）

Shiraume Reiwa Project

白梅学園　令和充実5ヵ年計画

- 創立80周年である2022年を中心にした5ヵ年
  - 2019-2020年度：準備期間
  - 2021-2022年度：プロジェクト前半
  - 2022-2025年度：プロジェクト後半



- キャッチフレーズ（例）
  ひとつになって、その先の白梅へ。
  子どもたちの未来に向かって。

- 基本施策
  - 白梅学園グランドデザイン
  - 各学校の教育充実策
    - 大学短大の新棟：プロジェクト期間内の着工を目指す
  - 財政再建策
  - 記念事業、及び募金の実施

［Ⅱ］2020 年度部門長方針及び重点取組

１．学園・法人事務局

2020 年度は、学園の「令和充実 5 ヵ年計画」（2021 年度～2025 年度）の準備期間の最終年度にあたります。「学園の持続的存続・発展」の実現のために、以下の点につき重点で取り組みます。

（１）学園

①教育活動の一層の発展のため、部門連携して以下の検討を行います。

・学園の中等教育の在り方検討（中学・高校）

・学園の幼児教育の在り方検討（幼稚園・大学・短期大学）

②学園広報の推進

学園の取組を外部の方々により一層ご理解いただくために、学園広報の推進を行います。

③学園創立 80 周年記念事業のための委員会を発足し、準備を具体化します。

（２）法人事務局

①学園の持続的存続・発展のため、財政再建に着実に取り組みます。

②学生・生徒・園児数の安定的確保に向けて全学で取り組みます。

③私学法改正の趣旨を踏まえ、ガバナンス強化に取り組みます。

④2025 年度大学・短期大学新棟工事着工に向けて、建築委員会を設置し具体化を図ります。

（法人事務局長　大林　泉）

２．白梅学園大学・短期大学

令和５ヵ年計画　準備２年目の課題―学園創立 80 周年への展望

2019 年 8 月に示した重点課題は、①大学・大学院・短大の将来像の明確化、②研究と教育のレベルアップと地域貢献、③建築事業に向けた総合的計画づくりの 3 点です。2020 年度は学園創立 80 周年をめざし、上記 3 点を含めた以下の重点課題に取り組みます。

(1) 大学・大学院・短大の将来像の討議と明確化

全教職員で開催したワークショップを踏まえ、将来の白梅のビジョン・コンセプト明確化します。将来構想委員会では、学部・学科の規模、教育・研究の柱の議論を継続・発展させ、本学における現状と課題を整理し、提言していきます。

(2)研究と教育のレベルアップと地域貢献

2019 年 4 月発足した「子ども学研究所」の事業（研究調査・地域連携・成果発信）の基盤整備と取組みを充実させます。「保育の白梅」から「保育学・子ども学の白梅」への発展をめざします。子ども・人間に視野を大きく広げ、子ども学研究を深化させます。子ども学・保育学・幼児教育学・教育学・心理学・福祉学をはじめ、赤ちゃん学、AI 関連など新分野の諸研究も蓄積します。豊かな教養・リベラルアーツ教育をさらに重視し、専門職と研究者の育成をめざします。子ども学アーカイブス（古田家蔵書プロジェクトほか）など知の集積拠点への活動をすすめます。ICT 環境の整備計画を立案し、教育・研究の組織的取り組みを準備します。

地域連携では、子育て広場・小平地域連携・西ネットをはじめ小平市・国立市・東村山市などの周辺自治体、大学間連携、国際的視野をもつ取り組み、およびリカレント教育をすすめます。

成果発信では、ホームページの外国語対応に着手し、教員業績情報システム導入を検討します。本学の強みを積極的にアピール可能な体制及び環境を整備していきます。

(3)大学短大新棟建築事業に向けた総合的な計画

建築委員会では、2020 年度 1 年間で建築の具体的内容につき結論を出す予定であり、計画的に議論を積みあげます。その検討状況は、大学短大の全教職員に共有化を図りながら進めたいと考えます。同窓会・後援会との組織的連携をすすめ、建築事業推進への協力依頼・提案募集など、創意工夫しておこないます。

(4)建学の精神の共有

理事長から要請があり、学長を中心に学園創立 80 周年に向け白梅学園の歴史を学び・継承する企画準備をすすめます。同時に建学の理念―ヒューマニズムの精神（人間尊重）を深め、充実・発展した表現を構想・提案します。

(5)大学・大学院・短大の学生・院生確保の重視

歴史と伝統を確かめ、未来を創造する白梅を確実にすすめます。学園の牽引車としての役割を果たすには、自由で自立した研究・教育を重視することが肝心であると考えます。子ども・人間にかかわる研究の高度化・深化をめざし教育実践をかさね、2020 年度前期には、学生数定員の確保院生数確保のための、数年先を見通した募集戦略計画を構築します。

（白梅学園大学・短期大学　学長　近藤幹生）

３．白梅学園高等学校

中期計画（第 2 年次）に基づき 2020 年度事業計画を策定し、効果的実践を経て所期の目標を達成したいと考えます。

(1)教育活動の推進・研究活動の推進

学校 ICT 環境の下、1 学年全生徒に iPad を持たせて双方向型授業を展開します。あわせてデジタルコンテンツの積極的活用を通して、探求学習を活発に展開します。
並行して、教科間連携を強化するために授業研究を充実し、多様な校内研修を用意し実施します。

(2)生徒支援の推進

高大連携プログラムを充実するため、津田塾大学、武蔵野美術大学との教養ベース特別講座を開設し、両大学から講師を招聘して指導を受けます。あわせて従来から実施している SFP（白梅 Future Program）について、継続講座（西川講座）の拡充と新規講座の開拓を進めます。

(3)生徒の確保

募集対策部を中心に、学校をあげて女子単独校の強みを中学校、塾等に浸透させ、小学 6 年生の増加傾向を本校に呼び込む。あわせて同窓会に呼びかけ、学校を支え育てる体制を整備します。

(4)国際交流の推進

現在実施しているニュージーランド語学研修（春季休業期間 2 週間）、ターム留学（1 月末～４月初めの 3 か月間）の上位プログラムとして、セント・ドミニク・カレッジ（ニュージーランド国）と姉妹校プログラム締結の準備に入ります。そのために先生と保護者の会の協力を得て、ホームステイ確保のための組織体制を構築します。

(5)働き方・仕事の仕方の見直し

放課後のさまざまな生徒個別指導を充実することが重要と考えます。そのために部活動指導員の確保促進を図り、制度をより効果的なものとします。

(6)建学の精神の高揚

生徒・教職員と白梅学園の連帯感を高める必要があると考えます。そのために建学の精神を踏まえた高等学校教育３ポリシーを周知し、3 ポリシーに基づく教育活動を展開します。
（注）3 ポリシーは 2019 年度中に策定済。2020 年度周知・実行します。

（白梅学園高等学校　校長　青山　彰）

４．白梅学園清修中学校・中高一貫部

2017 年度「白梅学園清修中学校・中高一貫部の今後のあり方検討委員会」の報告書で、学校の特色と魅力を鮮明にすることの必要性と対応策を早急に具体化することが求められました。2019 年度、その特色や魅力を懸命に広報してきましたが、2020 年度入学者数の目標値を達成することはできませんでした。

しかし、2020 年度 4 月に本校を第 1 志望で入学する 15 名の生徒・保護者の志望理由をみると、本校の教育方針や教育活動に共感して、「ぜひ清修に」いう強い志望動機をうかがい知ることができます。特に、これからの時代に求められる「英語によるコミュニケーション能力を育成する英語教育の内容」、授業参観を通して生徒一人一人が伸びやかに学校生活を送る生徒の姿から「女子一貫教育の魅力」などを受け止めていただいていると思います。

また、2019 年度、地元小平市への広報に重点を置いたことにより、小平市から多くの受験生が受験されたことは大きな成果と考えます。

2020 年度の広報活動の課題として、塾訪問・学校説明会の目的を明確にすることにより、受験者の獲得に教職員一体となって取り組んでまいります。

今後の取組の基盤となる「英語教育」「女子校」「6 年間一貫教育」「少人数指導」の特色を、他校との差別化を図るために、建学の精神である「ヒューマニズムの愛と自由の理念の下で、生徒一人一人のよさや才能を発見し、それを最大限に伸ばす」を踏まえて整理し学校運営及び生徒募集の広報活動に生かしたいと考えます。そのためには、学校の特色の『見える化』を図る必要があり具体的な計画を立案し実行していきます。

(1)英語教育に関わる教育活動の充実

英語の授業週 7 時間中、5 時間はネイティブによる All English の授業で「英語を使う、使える環境」を実現する。

(2)少人数女子教育の推進

AI 時代を生き抜く力として読解力、表現力を身に付ける。

(3)日常的な教育活動に ICT 機器の活用

日常的に電子黒板を活用した授業を展開するとともに、中学 3 年生終了時点で、表現の手立てとして、Word・Excel・PowerPoint を使用できる ICT スキルを高める。

（白梅学園清修中学校・中高一貫部　校長　山田　裕）

５．白梅幼稚園

子どもたちが日々の園生活の中で、主体的に取り組む『遊び』を大切にした保育を進めていきます。この主体的な遊びには多くの学びがあります。その学びを実現し、園児数増加につなげるため、2020 年度の重点施策に基づき、以下の課題に取り組んでいきます。

(1)主体的な遊びを中心とした保育・園庭改修についての研究の推進

・園庭改修を進めながら、月 1 回の園内研究会で子どもの成長、環境の在り方についての研究を進めていきます。

・研究の成果を様々な方法でまとめ、関係機関に発信していきます。

・公開保育を実施し、白梅幼稚園の教育を広くアピールします。

(2)大学・短大との連携の強化、幼児教育の在り方検討委員会の実施

・大学・短大と共に今後の白梅幼稚園の在り方について検討していきます。併せて大学・短大との連携について検討し、大学附属幼稚園としての在り方を考えていきます。

(3)2 歳児クラスの拡大と内容の充実

・2 歳児クラスの回数を増加、内容の充実のため、指導計画の見直しと計画の確実な実行を図ります。

・2 歳児クラスの内容の充実を図ることで、2 歳児保護者に白梅幼稚園のよさをアピールし、次年度の入園募集につなげていきたいと考えます。

(4)白梅幼稚園の広報活動の充実

・コンサルタントを交えて広報誌やホームページの刷新を図り、幼稚園の PR 活動をこれまで以上に強化していきます。

・様々な関係機関に足を運び、パンフレットなどが必要な人に届くよう、地域の拡大や関係機関の増加に努めます。

(5)預かり保育の内容の充実

・預かり保育への希望者が増加していること、内容に関しても要望が多いことを踏まえ、預かり保育での過ごし方などを見直し、課外活動への取り組みや異年齢とのかかわりなどについて検討しながら保護者の要望にも応えていきます。

（白梅幼稚園　園長　山形美津子）

設置学校の概要

白梅学園大学大学院

研究科・専攻科名		入学定員	収容定員
子ども学研究科 子ども学専攻	修士課程	15	30
	博士課程	7	21
合　計		**22**	**51**

白梅学園大学

子ども学部	学科名	入学定員	編入学定員	収容定員
	子ども学科	135	10	560
	発達臨床学科	50	10	220
	家族・地域支援学科	40	10	180
合　計		**225**	**30**	**960**

白梅学園短期大学

学科科名	入学定員	収容定員
保育科	95	190
合　計	**95**	**190**

白梅学園高等学校

		入学定員	収容定員
全日制課程普通科	高等部	280	840
	清修中高一貫部	60	180
合　計		**340**	**1,020**

白梅学園清修中学校

	入学定員	収容定員
白梅学園清修中学校	60	180
合　計	**60**	**180**

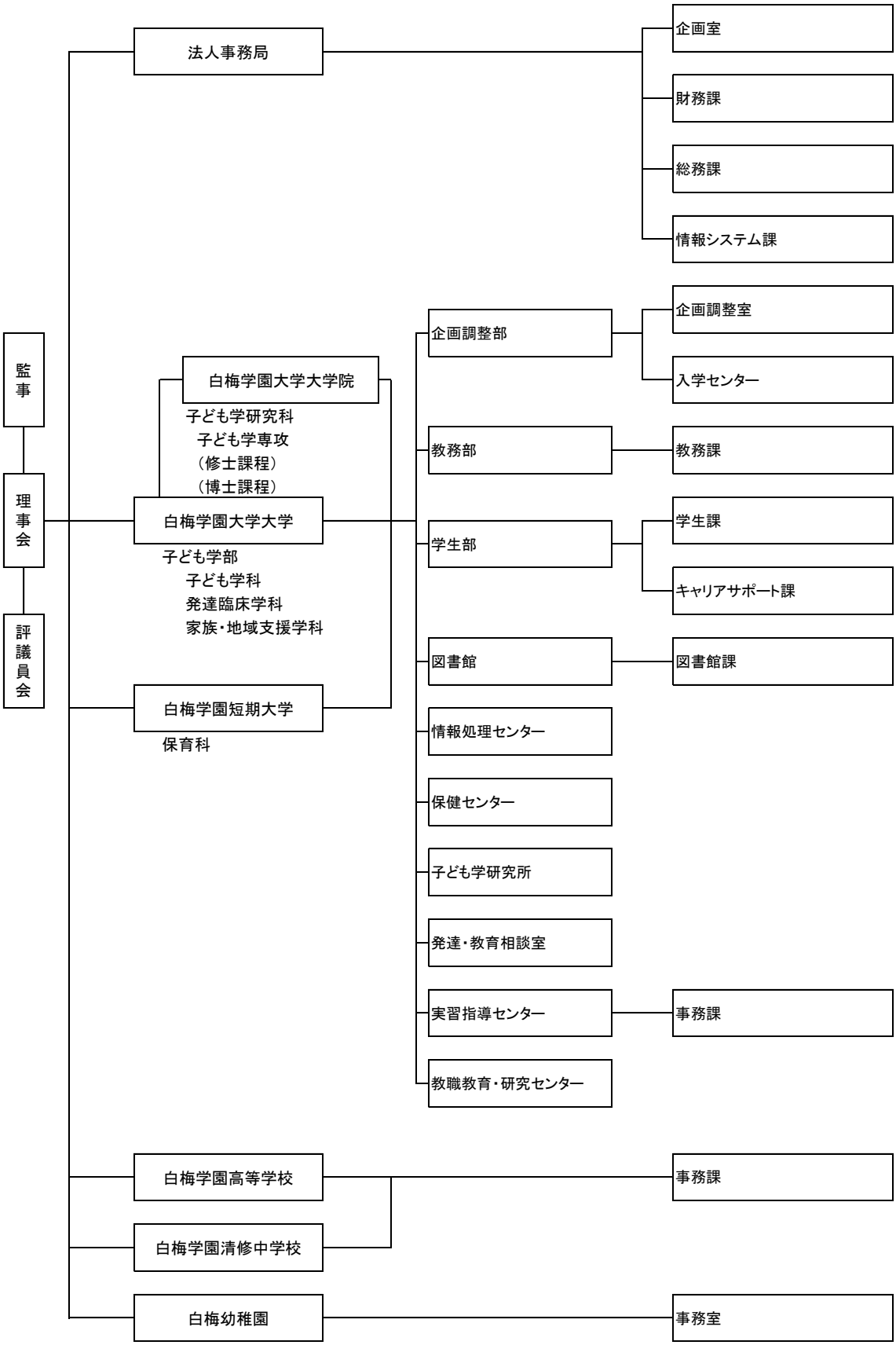
白梅幼稚園

	入学定員	収容定員
白梅幼稚園	70	210
合　計	**70**	**210**

白梅学園合計

学科名等	入学定員	編入学定員	収容定員
白梅学園大学大学院	22	－	51
白梅学園大学	225	30	960
白梅学園短期大学	95	－	190
白梅学園高等学校	340	－	1,020
白梅学園清修中学校	60	－	180
白梅幼稚園	70	－	210
合　計	**812**	**30**	**2,611**

学園組織図（2020 年 4 月）



［Ⅲ］2020 年度の主要な事業計画

１．教育活動の推進

【学園】

(1)学園の中等教育のあり方検討（中学・高校）

各学校の建学の精神を踏まえながらも、将来の教育環境の変化を見据えて、「学園の中等教育の今後のあり方」について白梅学園清修中学校・中高一貫部、白梅学園高等学校、法人事務局にて、検討を行います。特に白梅学園清修中学校・中高一貫部に関しては、8 月の理事・夏期集中討議に向けてあり方を整理し、討議の結果を受けてその後の方向性を学園として見出していきたいと考えます。

(2)学園の幼児教育のあり方検討（幼稚園・大学・短期大学）

保育の長い伝統を有し、こども学の研究強化に取り組む白梅学園大学・短期大学の協力を得て、「大学附属幼稚園」としての価値を高めるため、両校と法人事務局にて一年をめどに検討を行います。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

大学子ども学部（子ども学科、発達臨床学科、家族・地域支援学科)、大学院（子ども学研究科)、短期大学保育科は 2021 年度の学園創立 80 周年にむけ、「保育学・子ども学の白梅」への発展充実を目指し、教育・研究のレベルアップ、地域貢献を実施していきます。

建学の精神「人間を愛し、人間の価値を最高度に実現しようとするヒューマニズムの精神」を基礎に、社会の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成していきます。

(1)教育の質向上・内部質保証の確立

「教育の質向上・内部質保証の確立」へと発展させ進めていくために下記をおこないます。

① 大学･短期大学全体の教学マネジメント組織を中心とした教学 IR の年間計画策定し、各種アンケート・調査等実施及び結果分析の実施。自己点検・評価の実行により、教育の質向上、内部質保証機能の確立を行います。

② カリキュラムマトリクスの策定、カリキュラムマトリクスに示されたディプロマポリシーとの相関に紐づいた授業シラバス（2021 年度開講科目）の作成につなげていきます。アセスメント項目となり得る既存数値の整理と経年変化分析の実施し、アセスメントポリシーに基づく学修目標に対する到達度の評価により、学生の学修成果の可視化を実施していきます。

(2)将来構想における各学科の特徴の明確化及び定員の在り方の検討

将来の白梅のビジョン、コンセプトを明確化し、学部・学科、教育・研究の柱など議論を継続・発展させ、課題を整理し提言していきます。

(3)新任教職員への研修の充実

2020 年度は年度初めに FD、SD 委員会合同での教職員入職時ガイダンス・研修の実施を行い、よりスムーズな業務進行ができるよう支援をしていきます。

(4)学修者の主体性を引き出す授業を可能とする環境整備（教室の設備整備）

F 棟 4 階一部講義室を可動式の机椅子とすることで、アクティブラーニング型の授業実施増加につなげていきます。今後も学生の教育環境改善のため、改修など計画していきます。

(5)図書館における、学修支援体制の充実化・館内環境整備の充実

今まで以上にゼミナール・授業・カリキュラムとの連携を図り学習支援体制を充実していきます。学生アンケートを活用し、要望・改善点について改善事項を挙げ、学内の環境整備を行っていきます。

(6)情報処理センターにおける、学修支援体制・環境の充実化

2020 年度後期より、学生証の IC カード化によりノート PC の貸出自動化する予定です。学生の学修環境の充実をはかります。

【白梅学園高等学校】

(1)iPad を活用した授業展開

学校 ICT 環境を活用し、2020 年度入学生に iPad 用いた授業を展開します。これにより、教員―生徒間の双方向授業、生徒―生徒間の双方向学習を確立し、生徒にアクティブラーニングを促します。合わせて、学習コンテンツの開発を進め、多様な授業の構築を目指します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1)英語教育に関わる教育活動の充実

英語の授業週 7 時間中、5 時間はネイティブによる All English の授業で「英語を使う、使える環境」を実現します。

(2)少人数女子教育の推進

「厳しい環境においても、自分をしっかり持ち、未来を切り開いていくことのできる女性を育てる。」(本校の教育理念)。どのような環境においても、自分らしさを発揮できる女性を育てることをめざします。そのために、「AI 時代を生き抜く力」として「読解力、表現力を身に付ける」よう指導します。

(3)日常的な教育活動の中での ICT スキルの向上

日常的に電子黒板を活用した授業を展開するとともに、中学 3 年生終了時点で、表現の手立てとして、「Word・Excel・PowerPoint を使用できる ICT スキル」を高めます。

【白梅幼稚園】

(1)大学・短期大学との連携の強化、幼児教育の在り方検討

法人施策にある検討委員会で大学・短期大学との連携を強化しながら、今後の幼稚園の在り方について具体化します。

(2)預かり保育の充実

預かり保育の希望者増加に伴い、環境の見直しを行います。課外活動への取り組み、異年齢でのかかわりの充実に取り組みます（わらべうた、運動遊び、工作等)。

２．研究活動の推進

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

2019 年度に研究組織を改組し、2 年目となる 2020 年度は「子ども学研究所」の事業（研究調査・地域連携・成果発信）の基盤整備の定着化と充実を行います。子ども・人間に視野を大きく広げ、子ども学研究を深化させます。子ども学・保育学・幼児教育学・教育学・心理学・福祉学をはじめ、赤ちゃん学、AI 関連など新分野の諸研究も蓄積する。「子ども学アーカイブス」（仮称）など「知」の集積拠点への活動をすすめます。

(1)子ども学研究所を中心とした「子ども学研究」の拠点づくり研究の高度化推進

①研究助成の成果発表会、研究年報への掲載、学会発表等など研究成果の発信の機会を確保、充実させていきます。

②2020 年度も研究倫理・ガバナンス教育を実施しますが、内容の見直しをし、充実させます。

(2)「子ども学アーカイブス」（仮称）を中心とした知の集積拠点としての研究データベースの構築

2019 年度に寄贈された、古田足日氏の資料（本）を中心としたリスト（目録）作成し、寄贈資料（本）データ入力（資産登録）・装備をおこなっていきます。研究をかさね、今後資料活用（貸出・公開）をめざした、環境整備を行います。

寄贈資料を活用した、プロジェクトチームでの研究をすすめ、シンポジウムなどで成果を発信していきます。

(3)研究活性支援（研究助成含む）及び研究費獲得のための支援充実

科研費等の研究申請情報の発信、早期からの研究計画書の作成支援など、支援協力を実施します。研究費使用ルールのさらなる明確化を実施していきます。

【白梅学園高等学校】

(1)校内研修開催（3 回＋α）

各学期に 1 回の校内研修を実施し、学習指導、生活指導、組織経営の力を伸長することに繋げます。加えて、コミュニケーションスキル、カウンセリングスキルの向上に資する臨時的研修も開催し、教員の力量を高めます。

(2)授業研究実施（2 回＋α）

保護者対象授業公開（1 学期）、授業研究週間（2 学期）をコアとして、教科内・教科間授業研究を実施する。iPad 利用授業の開始年度に当たり、IT スキルの習得・効果的運用に関わる研修も複数回開催します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 教員の資質能力の向上

教員が一人一人の生徒の的確に学力評価を行うために、生徒の学力状況を把握するための評価に関わる研修を計画します。また、生徒の学力実態に応じた指導法に関わる研修を計画します。

【白梅幼稚園】

(1)「主体的な遊び」を中心とした保育の充実・よりよい園庭改修に向けての研究

月１回、園内研究会を行い、子どもの成長について話し合いを進め、検証しながら次の手立てを考えていきます。

(2) 公開保育の実施

学園内の大学・短期大学等の先生方に幼稚園を知ってもらうため公開保育を行います。

３．学生・生徒・園児支援の推進

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)キャリアガイダンスの充実

2020 年度も学生が自らのキャリアをデザインし、社会で活躍するための基礎力を身につけられるよう、地域や職場と連携し、キャリア啓発のためのプログラムを実施します。学科や希望進路先ごとにきめ細かなキャリアガイダンスを実施し、学生が自ら満足できる進路実現を支援していきます。

(2)公務員、教職採用試験ｻﾎﾟｰﾄの充実

希望進路先に合わせた試験対策を実施し、公務員対策講座（筆記・人物試験対策の両方共）に参加した学生の合格率 100％を目指します。

(3)修学支援新制度の周知徹底

2020 年度より施行される高等教育修学支援新制度を学生に十分に周知していきます。

【白梅学園高等学校】

(1)高大連携の拡大(武蔵野美大・津田塾大)

近隣 2 大学（武蔵野美術大学、津田塾大学）と高大連携環境を整備し、各大学の強みを高校授業に反映し、生徒の学習への関心・意欲を高める機会とします。特に武蔵野美術大学の芸術+サイエンス、津田塾大学の国際学視点を導入します。そのために、特別講座を開講し両大学からの講師を招聘し指導を受けます。

(2)SFP（Shiraume Future Project）の充実

2018 年度から開催の SFP「西川講座」（西川伸一・京都大学名誉教授）の第 3 年次を 2 学期に実施し、その後フォローアップする。文理融合の視点で講座を実施し、得られた成果を基にして、生徒による自主的・継続的研究の実現を目指します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 学力向上と的確な学力評価

生徒の学力の実態を把握し適切な支援を行うために、経年変化がわかる学力テストを実施します。

【白梅幼稚園】

(1) 特別に支援を要する子どもの育ちの保証（巡回相談や相談機能の活用）

園児在住市の巡回相談の機能や教育相談室の活用を図り、一人一人の子供を丁寧に見ていき、育ちを保証する保育に努めます。

４．学生・生徒・園児の確保

各学校の特色・魅力を、学生・生徒・保護者等にわかりやすくお伝えできているかという視点から、既存の取組みを見直して募集取り組みをより効果の高いものへと学園全体で見直します。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

2021 年度新入試制度対象者へ入試情報や本学新奨学金制度（特待生奨学金、給付奨学金）などの最新情報を適時案内し、より本学での学び、学生生活の魅力を感じてもらえるよう下記実施していきます。

(1)2021 年度入学者対象（新入試制度対象者）学生募集イベント（オープンキャンパス、高校教員対象説明会等）の実施

(2)定員充足に向けた学生募集活動（広告媒体、外部説明会への参加）

(3)中長期の 18 歳人口動向を見据えた学生募集広報

(4)大学案内、受験生サイトの制作

【白梅学園高等学校】

(1)募集対策活動の実効性強化

最新の中学 3 年生の受験動向を把握し、女子単独校としての安定的・持続的存在地盤の構築を目指します。そのために、学校ホームページの活用を含めて学校広報の強化充実を図ります。また、一人でも多くの本校入学適格者を確保するため、マッチングスキルの伸長に努力します。

(2)奨学生制度の活用

入学奨学生制度（都内生、埼玉生・都外生）の効果的利用に努力します。埼玉生対象の奨学生制度の効果検証に基づき、2020 年度（制度導入第 3 年次）も一層の安定化を目指します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1)募集対策の工夫

魅力ある学校の特色を鮮明にして募集活動に取り組みます。そのために、戦略的な塾訪問を企画し、本校が求める生徒像を定着させます。また、学校説明会では多様な企画を立案します。

【白梅幼稚園】

(1)入園前の 2 歳児クラスの拡充、内容の充実

週 2 日に拡大するとともに、2 歳児クラスの指導計画を充実し、園児数の確保につなげます。

５．学園広報の推進

【学園】

(1)学園広報の見直し

「白梅は、いろいろ良いことをやっているが、外部への発信が十分とは言い難い」との声をいただき、地域の皆さんや保護者や志願者の皆さんに学園をより理解していただくために、学園広報の在り方、考え方、具体施策（ホームページの在り方、学園広報誌等）を見直します。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)学園内連携の強化

今まで以上に附属白梅幼稚園との連携を強化するため、「学園の幼児教育の在り方検討会」を通じて具体的な方向性を検討します。

(2)ホームページ・情報公開

教育活動・地域貢献活動等の教員や学生の活動をホームページへの速やかな公開をしていきます。

【白梅幼稚園】

(1)白梅幼稚園の広報活動、ホームページ・情報公開の工夫

コンサルタントと打ち合わせを行い、効果的な幼稚園広報の発行に努めます。

関係機関を廻り、パンフレットの配布、設置を拡大します。

６．国際交流の推進

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)ホームページ外国語対応（一部）

近年海外より本学への見学等の問い合わせを受け、本学を広く理解いただくためにもホームページ（一部）外国語対応を行います。

【白梅学園高等学校】

(1)姉妹校提携締結のための準備

セント・ドミニク・カレッジ（ニュージーランド国）との間で長年にわたり実施している語学研修（春季休業日中)、ターム留学（1 月～3 月の 3 か月間）による両校間の信頼関係を基盤にして、姉妹校提携の段階に移行する準備年度とします。今後、意向確認（2020 年 3 月実施の語学研修期間中)、本校における受入れ環境構築準備（2020 年 4 月～12 月)、を経て、2021 年 3 月以降に姉妹校提携の最終締結を目指します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 国際交流の企画

第 2 学年次の国内英語研修で、留学生との交流を国際理解教育に位置づけます。また、第 4 年次海外研修旅行では、日本文化の交流の場を設定します。そのために、留学生「聞いてみたい、話してみたい」という関心・意欲を高めます。また、第 4 学年次のカナダ・ホームスティでは、英語によるコミュニケーションの楽しさを体感させます。

７．生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)地域連携の強化

子ども学研究所における活動助成として、地域連携支援を強化していきます。2018 年度小平市、2019 年度国立市との協定を締結しました。今後も地域連携事業及び近隣市町村との連携を強めていきます。

(2)リカレント教育の実施

2020 年度も免許状更新講習や保育士キャリアアップ研修などの本学ならではの現職者に向けた講座の開催並びに「子ども学講座」や「保育セミナー」などの公開講座を実施していきます。

【白梅学園高等学校】

(1)地域行事、地域美化活動への参画

生徒会活動の一環として、小平市灯り祭り開催支援等の地域行事参画、学校美化デー活動に関わっての地域美化活動参画を柱として、地域貢献活動を展開します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1)地域貢献の推進

小平市内公立小学校へ小学生対象英語教室を働きかけます。また、2019 年度に発足しました「SDGs サークル」が玉川上水清掃活動に参加します。

【白梅幼稚園】

(1)地域の方々や近隣大学との交流を推進

これまで築いてきた関係や連携を持続し、子どもたちの多様な経験を充実します。

８．卒業生との連携等の推進

【学園】

2022 年に学園創立 80 周年を迎えます。卒業生の皆さんに、学園の近況や今後の将来像をお伝えするとともに、卒業生と現役生の交流を深めていきたいと考えております。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

2020 年度も同窓会総会等での講演会講師を派遣し、支部の記念事業への教員参加など活動を行い卒業生との交流をはかっていきます。

【白梅学園高等学校】

(1)進路指導行事講師招聘の充実

同窓会との連携を強化し、本校進路行事への同窓生講師派遣支援を求めます。その上で、招聘の多様多岐化を図り、行事内容の一層の充実を目指します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 同窓会組織化の推進

卒業生を学校説明会や進路指導に関わる行事等にゲストとして参加を依頼し、学校と卒業生のつながりをもちます。さらに、同窓会の組織をめざします。

【白梅幼稚園】

(1) 卒業生、保護者 OB との連携推進

年 1 回の同窓会を例年通り行うとともに、保護者 OB との関係をつなげるようにし、白梅幼稚園のよさをアピールしてもらいます。

９．働き方・仕事の仕方の見直し

【学園】

(1)白梅学園が、教育・研究面で一層の飛躍を図り、教職員がより充実して仕事に取り組めるよう、難しい課題もありますが、各部門で教職員の働き方の見直し、仕事の仕方の工夫を進めていきたいと考えます。

(2)特に、大学・短期大学の教育・研究の質（価値）の一層の向上のため、より学生支援サービスを一体となって提供できるよう、また、教職一体となって、大学改革等により迅速に対応できるよう、大学事務組織の改編を行います。これにより、教員の教育研究の専念体制による時間創出、職員としてのやりがい、能力向上を目指します。

(3)働き方・仕事の仕方の具体的な見直しを進めつつ、裁量労働制・変形労働時間制の導入の如何についても教職員と協議しながら検討を進めていきたいと考えています。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

事務組織を一部グループ化し、機動的な業務配置にすることで組織力を強めていきます。学生サービスの向上、教員の研究支援等の強化をはかります。

【白梅学園高等学校】

(1)部活動指導員配置促進のための報償費等の充実

部活動の活性化と教員顧問制度の効果的な運用を実現するため、部活動指導員制度を強化します。そのために、適任の指導員候補者を円滑に獲得できるよう、報償費等の充実を目指します。

【白梅学園清修中学校】

(1)学校運営組織の強化

教科ごとに複数の専任教員を配置し、専任教員の業務と責任を明確にします。また、校務分掌を複数で関わることにより、より一層有効に機能させます。

【白梅幼稚園】

(1)働き方・仕事の仕方の見直し

会議の効率化や教員間の仕事の見直しを園全体で取り組みます。

10. 建学の精神の高揚

【学園】

学園創立 80 周年を迎え、今後白梅学園が未来に向けて社会の発展にどのように貢献していくかを考えるにあたり、「原点回帰」し、1942(昭和 17)年本学園創設時の建学の精神に関し、その精神を全員で深く共有していきます。また、創設当時をよりよく理解するために、創設時の事情を研究されている方に協力を依頼したいと考えます。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1) 学園創立 80 周年記念に向けた大学・短期大学の歴史の再考

学園創設時の建学の精神に関し、その精神を全員で深く共有するための講演会等実施をしていきます。学園創立 80 周年事業にむけ、各種事業の立ち上げるため、法人事務局と協力体制構築します。

【白梅学園高等学校】

(1)建学の精神を踏まえた 3 ポリシーの明示

学園建学の精神、高等学校設立趣意書等を基盤にして、2019 年度中に教育 3 ポリシー(DP・CP・AP) を策定しました。2020 年度 4 月より教育 3 ポリシーに基づく教育を展開します。

【白梅幼稚園】

(1)幼稚園 70 周年記念

子どもたちに白梅幼稚園の 70 周年について話し、「おめでとう集会」を行います。「幼稚園が戦後どのようにして設立されたか」教職員で学び共有し、今後に活かしていきたいと思います。

11. 令和充実 5 ヵ年計画・学園創立 80 周年記念事業

【学園・法人】

2020 年度は、2021 年度から 5 年間の「令和充実 5 ヵ年計画」の最終準備の年にあたります。2022 年 3 月の学園創立 80 周年にむけて記念事業委員会発足し、学園史、記念行事、募金等の検討を行います。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

2022 年 3 月の学園創立 80 周年記念事業にむけ各部門と協力をし、進めていきます。大学・短期大学の同窓会や後援会と協力呼びかけをし、記念事業に備えていきます。

12. 大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画

【学園・法人】

(1)大学・短期大学新棟の内容等具体化にむけ「建築委員会」設置

2019 年度に建築準備委員会にて検討した課題等を受け、建築委員会を発足します。建物の規模や建築する場所、主な設備等の主要な方針を決定します。

(2)施設の中長期整備計画の検討・具体化（常勤理事会）

学園内の施設更新のための中長期整備計画の検討を常勤理事会にて行います。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)大学・短期大学新棟についての建築委員会発足・具体的検討

2025 年工事開始、2027 年供用開始に向けて、大学・短期大学新棟の具体的内容につき、常勤理事会から付託を受けた「建築委員会」で検討し、本年度に具体化します。未来の教育内容等を「将来構想委員会」で具体化し、両委員会が車の両輪となって進めます。

建築委員会には、幼稚園・中学・高校の委員も参加します。

13. 財政再建計画

【学園・法人】

「学園の持続的存続・発展」のために、以下の取組を行います。

(1)人件費・物件費見直し計画の着実な実行

(2)学生生徒数の安定的確保に向けた収入面の取組・計画検討

(3)重点方針・重点取組に基づいた新予算制度の着実な実行

(4)外部資金獲得の検討

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)安定的な定員確保に向けた今後の募集・広報戦略の策定

さらに進む 18 歳人口の減少等の外部環境の変化に伴い、対応していく募集・広報戦略を策定し、中期的に安定的な定員確保を行います。

【白梅学園高等学校】

(1)諸手当再度見直し並びに当該手当単価見直し

廃止すべき手当の洗い出しを再度行うとともに、継続する手当についても、法人事務局と検討の上、適正な単価の決定を目指します。

(2)ペーパーレス会議の導入

教員室に設置している学習指導用個別 PC を教員会議や校内研修に活用し、ペーパーレス会議化を目指します。2020 年 4 月以降、順次実施するとともに、随時利用検証を行い、改善に努力します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 財政の健全化

第一に入学生徒の確保をめざします。また、学校運営経費のスリム化をより一層図ります。

14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底

【学園・法人】

以下の取組を行います。

(1)全部門において意思決定の迅速化・透明性確保

(2)ガバナンスコードの自主作成

(3)内部統制システムの具体化定着（法令順守、情報管理等）

(4)PDCA の定着

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】

(1)教学各種委員会のあり方の検討

教員の教育研究のための時間を創出するため、教学委員会の教員の過度な負担とならないよう各種委員会のあり方と会議のスリム化の検討を行います。事務職員の協力を得て、教職協同により解決を図ります。

(2)IR 機能の強化による質保証機能の構築

教学 IR の年間計画策定し、各種アンケート・調査等実施及び結果分析の実施。また経年数値の整理による推移比較、ベンチマークなど実施し自己点検・評価につなげていきます。

【白梅学園高等学校】

(1)部長会、学年主任会の権限強化

学校経営の基軸としての部長会、学年経営の基軸としての学年主任会を単に報告・調整の場に留めることなく、権限を付与することにより、学校運営判断主体に引き上げます。

(2)学年会、部会の活性化

学年主任、分掌部長の指導の下、学年会、部会の課題解決力の向上に努め、3 学年・5 部会の緊密な連携を実現して、組織対応力の強化と組織活動の活性化を目指します。

【白梅学園清修中学校・中高一貫部】

(1) 意思決定と権限の明確化

校長及び学校組織各分掌における PDCA に対する説明責任をもちます。

【白梅幼稚園】

(1)教員組織の機能と職員会議の機能を活かしながらの園運営

園務分掌を見直し、適材適所で一人一人の能力が活かせるよう組織体制を有効に機能させていきます。

15. 管理運営（施設改修・更新・労務他）

【学園・法人】

施設の安全確保のための改修・更新を以下の通り行います。

(1)消防用自家発電機の更新

(2)中学・K 棟天窓修理

(3)高校・グラウンドオールウェザー修繕
(4)中高・第2大体屋根漏水修理
(5)大短・E棟外壁塗装工事
(6)幼稚園の一部補修　等

【白梅学園高等学校】
(1)体育館冷房化に向けた準備
夏季期間の高温環境の下でも安定した教育活動を実現するため、体育館冷房化の早期実現を目指す。都立高等学校の体育館冷房化に後れを取らないことを整備完了目標とします。
(2)教員退勤早期化取組の強化
本校の働き方改革の一里塚として、勤務時間終了後の早期退勤の実現に取り組む。2020年度は、最終退勤20:00を暫定的目標とし、その実現のために「学校組織のタイムマネジメント」と「教員個人のタイムマネジメント」を適正に実行します。

16. 情報化教育/ICT

【学園・法人】
各学校の情報化教育の方針を踏まえ、「学園としてのICT計画」を検討します。
(1)講義室等AV設備整備[大短]
講義室利用環境の統一性を最優先に老朽化した設備整備を実施します。
(2)証明書自動発行機整備[大短]
学生の利便性向上や証紙関連業務の負荷軽減を目的として証明書自動発行機を導入します。(2019年度までに各種データ整備・事務室内発行システム整備まで完了。)
(3)ICカード整備[全学]
学生・教職員証利用を想定し、まずは証明書自動発行機にて利用できるようにします。ICカード作成は学内発行とし、カード作成機を導入します。各部門の将来構想により次年度以降のフェーズにて用途の拡大を検討します。
(4)電子黒板環境整備[清修]
清修中学校・一貫部の各教室に整備済のプロジェクタ、授業用PCが老朽化しているためリプレイスします。
(5)ネットワーク整備[幼稚園]
2019年度に行った幼稚園業務のICT化をより活用するために、幼稚園のネットワーク通信環境を整備します。
(6)セキュリティ対策[全学]
学園のPCセキュリティ向上のため、マイクロソフト統合デバイス管理ツール（SCCM）を導入し、主にエンドポイントのセキュリティ統合管理を行います。

【白梅学園大学・白梅学園短期大学】
(1)ICT環境の整備計画策定（委員会等の設置）
学内のICT環境整備の設置・運用を検討する委員会等の設置をし、2020年度内に学長へ

答申を出し、今後の方針について検討を行っていきます。

【白梅幼稚園】

(1)ICT 化の実現による事務の効率化

導入された ICT を活用し、事務の効率化を図り、働き方見直しの一助にします。

[Ⅳ]2020 年度予算

１．予算編成方針

2020 年度の予算編成は、以下の方針に基づいて行いました。

①収入の範囲内での予算編成を念頭に置き、活動区分資金収支予算書において「マイナス予算は組まない」事を確認し、支払資金の増減額は 1 百万円となっております。

②財政再建策より、役員の報酬等の返納及び教職員の賞与 0.5 ヶ月カットを予算化した上で、大短新棟建設に備え、減価償却引当特定資産へ 120 百万円の繰入を行いました。

③経常経費については、2018 年度実績より 10%カットを目標とし、全部門で予算の見直しを行い、概ね達成、実績額ベースの予算編成を実現しました。

④各部門からの重点方針により 2020 年度に政策的に重視する項目を予算化しました。

⑤予算執行時には、相見積もり等の一定の手続きとります。

２０２０年度 重点予算一覧

内容	金額	部門
学術研究の拠点の充実・発展と地域貢献（古田家寄贈図書関連）	110万円	大学短大
募集・新入試制度 対応のための広報費強化	300万円	大学短大
学生の学びへの支援体制の整備	200万円	大学短大
預り保育の充実	200万円	幼稚園
２歳児クラスの充実	90万円	幼稚園
大短新棟計画の具体化	800万円	法人
学生数確保等 収入増の取組み	660万円	法人
事務職員能力アップのための研修	80万円	法人
合計	2440万円	

２．収支見通し

事業活動収支予算書「教育活動収支」の収入の部では、前年度 2,910 百万円でしたが、80 百万円減少し、本年度は 2,830 百万円となります。主な要因は、学生生徒納金の 77 百万円減少です。学生等数が学園全体で 28 人減少したこと、及び幼稚園の保育料無償化の影響によるものですが、保育料無償化分は、経常費等補助金・施設型給付費収入に計上されています。その他には、入学検定料が 5 百万円、退職金交付金収入が 6 百万円減少しています。

支出の部では、前年度 2,918 百万円でしたが、121 百万円減少し、本年度は 2,796 百万円となります。財政再建策による人件費の減少 54 百万円、高等教育修学支援新制度に伴う奨学金の見直しによる奨学費の減少 22 百万円、実績に基づく予算編成によりその他経費の削減を行い、その結果、教育活動収支差額は前年度 8 百万円の支出超過から 41 百万円改善し、本年度は 33 百万円の収入超過となります。

「教育活動外収支」は前年度と比較し、75 万円増加となります。

教育活動収支と教育活動外収支の合計である「経常収支差額」は、前年度比 42 百万円改善し、35 百万円の収入超過となります。

「特別収支」については、中高部門の ICT 整備の補助金を 5 百万円と見込み、前年度比 24 百万円の収入減少となります。特別収支差額は、2 百万円となります。

「基本金組入前当年度収支差額」は、経常収支差額と特別収支差額の合計で 36 百万円の収入超過となります。前年度は 18 百万円の収入超過であり、前年度比 18 百万円の改善となります。

「基本金組入額」は 94 百万円となります。第 1 号基本金には、大短講義室整備費用 40 百万、中高 ICT 整備 20 百万を計上していますが、借入金返済額が減少した事等により、前年度比 107 百万円減少となります。大短新棟建設のための第 2 号基本金は計画の再協議中であり、3 月の理事会にて今年度も組入れをしない事を決定しました。なお、大短新棟のための資金 1 億 2 千万円は、減価償却引当特定資産に組入れています。

「当年度収支差額」は、57 百万円の支出超過となり、前年度比は 126 百万円の改善を見込みます。

「前年度繰越収支差額」に「当年度収支差額」を合計し、「翌年度繰越収支差額」は 4,703 百万円の支出超過となります。

３．資金収支予算の概要

（単位：百万円）

		H28 決算	H29 決算	H30 決算	H31 予算（A）	R2 予算（B）	増減（B-A）
	学生生徒等納付金収入	2,207	2,079	2,020	2,027	1,949	△78
	手数料収入	38	35	36	40	35	△5
	寄付金収入	10	10	19	8	9	1
	補助金収入	779	822	771	810	791	△19
	資産売却収入	11	2	0	0	0	0
	付随事業・収益事業収入	23	22	17	17	16	△1
	受取利息・配当金収入	2	2	2	2	2	0
	雑収入	152	150	72	36	33	△3
	借入金等収入	54	1	2	1	1	0
	前受金収入	423	427	448	443	432	△11
	その他の収入	747	748	845	610	575	△35
	資金収入調整勘定	△674	△557	△498	△479	△467	12
	（当年度資金収入）　①	(3,771)	(3,740)	(3,735)	(3,514)	(3,376)	△138
	前年度繰越支払資金	571	611	623	＊ 675	＊ 739	△27
収入の部合計		4,342	4,352	4,358	4,280	4,115	△165
	人件費支出	2,230	2,166	2,005	1,984	1,908	△76
	教育研究経費支出	532	523	510	580	512	△68
	管理経費支出	141	118	122	140	148	8
	借入金等利息支出	4	3	2	2	1	△1
	借入金返済支出	77	81	81	81	52	△29
	施設関係支出	93	24	10	34	0	△34
	設備関係支出	41	102	22	162	75	△87
	資産運用支出	27	134	128	27	147	120
	その他の支出	619	604	738	556	557	1
	資金支出調整勘定	△33	△26	△25	△24	△24	0
	（当年度資金支出）　②	(3,730)	(3,729)	(3,592)	(3,541)	(3,375)	△166
	次年度繰越支払資金	612	623	766	648	740	1
支出の部合計		4,342	4,352	4,358	4,280	4,115	△165
（当年度資金収支）　①-②		41	11	143	△27	1	28

４．事業活動収支予算の概要

（単位：百万円）

			H28 決算	H29 決算	H30 決算	H31 予算	R2 予算	増減
						（A）	（B）	（B-A）
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	2,207	2,079	2,020	2,027	1,949	△78
		手数料	38	35	36	40	35	△5
		寄付金	11	10	9	9	10	1
		経常費等補助金	716	818	771	781	787	6
		付随事業収入	23	22	17	17	16	△1
		雑収入	148	150	72	36	33	△3
		教育活動収入計	3,143	3,114	2,925	2,910	2,830	△80
	支出	人件費（退職給与引当金繰入額を除く）	2,029	1,994	1,922	1,932	1,881	△51
		退職給与引当金繰入額	182	149	92	65	62	△3
		教育研究経費	721	708	702	772	696	△76
		（うち減価償却費）	(189)	(185)	(192)	(192)	(185)	(△7)
		管理経費	148	126	130	148	156	8
		（うち減価償却費）	(8)	(8)	(8)	(8)	(9)	(1)
		徴収不能額等	0	0	0	0	0	0
		教育活動支出計	3,080	2,977	2,846	2,918	2,796	△122
		教育活動収支差額	63	137	79	△8	33	41
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	2	2	2	2	2	0
		収益事業収入	0	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	2	2	2	2	2	0
	支出	借入金等利息	4	3	2	2	1	△1
		その他	0	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	4	3	2	2	1	△1
		教育活動外収支差額	△1	△1	0	1	1	0
		経常収支差額	61	136	79	△7	35	42
特別収支	収入	資産売却差額	1	0	0	0	0	0
		施設設備寄付金	1	0	10	0	0	0
		現物寄付	0	0	2	0	0	0
		施設設備補助金	62	4	0	28	5	△23
		過年度修正額	4	0	0	0	0	0
		特別収入計	68	4	12	28	5	△23
	支出	資産処分差額	82	60	4	3	3	0
		その他	0	0	0	0	0	0
		特別支出計	82	60	4	3	3	0
		特別収支差額	△14	△56	8	25	2	△23
基本金組入前当年度収支差額			47	80	87	18	36	18
基本金組入額合計			△74	△224	△211	△201	△94	107
当年度収支差額			△27	△144	△124	△183	△58	125
前年度繰越収支差額			△4,167	△4,194	△4,338	*△4,561	*△4,646	△184
基本金取崩額			0	0	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額			△4,194	△4,338	△4,462	△4,745	△4,703	△57

（参考）

事業活動収支計（＝帰属収入）	3, 212	3, 120	2, 939	2, 940	2, 837	△103
事業活動支出計（＝消費支出）	3, 166	3, 040	2, 853	2, 922	2, 800	△122

＊　2019 年度予算は、2018 年度決算確定前に作成しております。

2020 年度予算は、2018 年度決算を反映しております。